

いわて リノベーションスタディ 開催報告【建築住宅課】

平成28年11月1日(火)～2日(水)



—民間と行政が連携し、私たちの地域や岩手県全体の課題を解決する「ビジネス」を興す。
しかもそのビジネスを、行政が所有する公共建築物や公共空間を使って行う—

「いわてリノベーションスタディ」は、これまでの行政の取組ではあり得なかったこれらのことを本気で行うべく、公民連携のための体制整備と人材育成を目的として、2日間にわたり開催しました。

講師には、この趣旨に賛同していただいた、全国各地でまちづくりを先導する大嶋芳彦氏、西村浩氏、明石卓巳氏、嶋田洋平氏、岡崎正信氏が駆け付け、具体的な事業を組み立てる「実践」の場とするためのサポートをしていただきました。

受講者は32名。民間人と公務員を半数ずつ募集しましたが、どちらも「自らまちを変えよう！」という強い志を持った方々で、あっという間に定員に達しました。

スタディでは、盛岡市が所有する「旧紺屋町番屋」と、岩手県が所有する「内丸緑地」を対象案件とし、民間人と公務員混成によるそれぞれのチームが、地域を変えるビジネスをとことん考え事業計画を組み立てながら、それを実現するために必要な法令や手続きについても検討しました。

検討の成果は公開でプレゼンテーションを行い、紺屋町番屋を演芸場としてリノベーションし、庶民のまちのイメージを生かして周辺エリアを活性化するアイデアや、内丸緑地をマルシェやバルなどで人が集まるエリアとしてリノベーションし、民間の参加を促すことにより周辺エリアを活性化させるアイデアについて、事業収支や実施主体等も踏まえた計画が提案されました。

民間主導のまちづくりを推進するためには、行政の意識改革はもちろんですが、「自分のまちは自分で作る！」という、みなさん自身の意識改革と行動力が不可欠です。一見難しそうですが「まちを使う」「まちを楽しむ」ことがその第一歩。今回の受講者を中心に今後取組を加速させていきますので、みなさんも自分のまちを楽しんでください。

